

# 社会「自分の将来役立て」

## 8月の学生ボランティア研修進む

(続報)小学生が夏休みの5日間、親元を離れて共同生活しながら100kmのコースを歩く「おのみち100km徒歩の旅」(広島県、尾道市、山陽日日新聞社など後援)の本番に向けて、今年も準備が進んでいる。

【幾野伝】

### 100km徒歩の旅

青少年の健全育成をテーマに、「生きる力を育んでもらいたい」と実行委員会(柿本和彦実行委員長)が2003年から続けている事業

で、今年で5回目となる。8月6日に千光寺公園を出発し、市内を北は御調から南は因島まで設定した100kmのコースを4泊5日で歩くというもの。コース上の小学校が宿泊地となる。

回を重ねることに参加希望者が増えて、昨年まで3年生以上になっていた学年枠を今年から4年生に引き上げたものの、定員の100人を大きく超える140人近くが応募。抽選により107人を決定している。市内以外にも広島市、福山市、三原市などから参加がある。

「100km徒歩の旅」でもう一つ事業の大きな柱となっているのが、子供達をサポートする学生ボランティア(リーダー)の養成で、今年は尾道大学をはじめ県内4つの大学から59人が登録した。

学生リーダーの研修講座は5月6日のオリエンテーションから始まっており、毎週日曜日に向島公民館などで参加型セミナーを開催。グループディスカッションやコミュニケーションゲームなどを通して人との関わり合い方、自分が考えていることの伝え方などを



習得している。歩くコースの確認なども行った。6回目となった17日は、これまでの研修内容を確認しながら、グループで輪になってディスカッション(写真)。柿本実行委員長は「学んだことを自分の将来に役立てて、社会に還元してほしい」、「研修のための研修にならないように」とアドバイスしていた。各グループを束ねる団長補佐が発表され、それぞれ本番での給水や救護、安全誘導など8つの係への配属などを決定した。研修会はこの後、係ごとの実践練習やリハーサルを繰り返しながら本番

上原千穂、笠行草夫、鎌倉勇弥、神田有紀、櫻井絵理子、佐藤佑樹、澤田光和、澤山健吾、網島さおり、恒松耕平、永尾優美、永溝愛子、中村賢司、野々垣悠、橋本真衣、長谷川大介、濱

川桃子、濱村千昌、原みのり、東原誠、藤川希、三谷奈津美、宮内亮、森元瑠衣、山本純子。  
 【国立広島大学】植田頭子、河野祐里、坂井正街、清水育美、遠山ゆり、永岩暁子、永瀬田佳、仲村達哉、古井香苗、吉岡梨恵。  
 【広島国際学院大学】松本洗穂。  
 【広島大学】赤松真衣、安部祥子、北川有典、古賀あゆみ、重廣孝、城田ゆかり、西倉圭吾、萩尾寿隆、花房かつら、馬場智恵美、濱田ゆり子、濱田るみ子、原田泰宏、平岡千加子、福田章人、松本好美、山下涼也、吉松明日香、林妙燕。

2007年6月19日(火曜日)